

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット①		
所在地	愛知県名古屋市中区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和6年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナから地域の行事が中止や無くなってきている中で事業所が地域の催し物を発信していく立場となれる様、地域の方々を招いての音楽療法や夏祭りを実施している。また今後予想される買物難民の問題に対して移動スーパーを誘致している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白とブラウンを基調とした3階建ての事業所はマンションを思わせる外観で、開設9年を迎えている。1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。法人の理念を基本として、事業所独自の理念「自分らしくたのしく生きる」を今年度のビジョンとして掲げ、笑顔あふれる我が家を目指して入居者が心地よく安心して過ごせるように職員が一丸となってケアに繋げるように努めている。周りは閑静な住宅街で近くには公園、小学校や中学校、コンビニなどがあり日々の散歩で町の賑わいや季節を感じるようにしている。同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」への参加、事業所主催の夏祭りやさまざまなボランティア行事などに地域の方々も誘い入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ環境や催しが徐々に再開し、入居者の笑顔が取り戻せる機会となっている。また、将来的な買い物難民を想定した移動スーパーも継続し、入居者の楽しみとして継続している。穏やかな日差しが差し込む居間では、ソファに腰掛けのんびりとテレビを観たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に加え年ごとにビジョンを考え、生活上りハビリ、認知症緩和、地域交流について実践している。	法人の理念の9項目を基本とした事業所独自の理念「自分らしくたのしく生きる」をフロアに掲げ、今年度のビジョンとしている。笑顔あふれる我が家を目指し、入居者が心地よく安心して過ごせるように職員会議やミーティング等で確認し、各自の行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が公民会(自治会)に入会しており、地域の防災訓練へ参加する等交流している。	地域の公民会に加入し回覧板や運営推進会議などで情報を得ている。制限の緩和により再開された地域の防災訓練に参加をしている。状況を確認しながら、家族や地域住民と共に楽しむ小規模と合同の夏祭りを再開している。週1回の移動販売車の場所の提供や、事業所で開催するカフェや音楽療法は入居者と交流できる機会として大切に維持している。こども110当番や地域のコミュニティとしての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェをコロナ5類移行後に再開し、地域の人々に認知症の人の理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を事業所が可能な範囲で改善に取り組み、より良い事業所をつくるために活かしている。	運営推進会議は5月以降対面で実施している。入居者や家族、公民会長、南区北部いきいき支援センター等の参加を得て併設の小規模多機能事業所と合同で、身体拘束適正化委員会も併せて実施している。会議は事業所の運営状況や入居者の生活の様子、行事報告に加え課題に対する有意義な意見交換の場とし、要望等は記録して職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。議事録は参加者や家族に届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営上不明な点を電話にて確認する他、地域包括支援センターとも運営推進会議の場を主としながら事業所の取り組みを伝える等協力関係を築いている。	認定申請など必要な業務には市の窓口に出向き情報交換をしたり、運営上不明な点は電話やメールなどで確認し、助言や指導を得ている。南区北部いきいき支援センターとは運営推進会議を通し事業所の運営や取り組みを伝えるなど常に情報交換をしている。また、アルツハイマー月間における図書館との共同企画に協力し、「認知症とともに自分らしく暮らす利用者」のパネルを展示をしている。市の主催する研修には参加できる体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度身体拘束適正化委員会の実施や、定期的な研修の実施を行い、身体拘束を行う場合でも、常態化せず、廃止に向けての取り組みを行っている。	2か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、運営推進会議で報告している。定期的に身体拘束や人権及び虐待、メンタルヘルス等の研修を行い、年3回、自己評価チェックリストを基に問題点を話し合い職員の意識の向上に努めている。スピーチロックや不適切な対応を含め拘束感のない生活や職員相互で注意し合える環境を整えている。問題が発生した場合はその都度、検討会を開催し協議して取り組むようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で定期的に人権・虐待に関する研修を行っている。多数の目を入れるため職員のフロアを固定せず行き来する体制や注意し合える環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で権利擁護に関する制度の研修を行い、職員の理解を深めている。また、必要に応じて権利擁護の提案を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不明な点の確認をおこなっており、改定時には事前に運営推進会議の場での説明、質疑応答を設け理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との関りの中や来訪時や電話、運営推進会議の中で意見・要望を伺いより良い事業所運営ができるよう改善に努めている。	入居者からは日々の関わりの中からの思いや要望を聴き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や運営推進会議、行事の折に意見や要望を聞き、ケアや運営に反映させている。入居者の日ごろの様子を記載したグループホーム便りを毎月発行して家族に安心感を届けている。意見箱を設置し意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中やスタッフ会議、フロアミーティングを開催し職員の意見・要望を伺い運営に反映させている。	日常の業務の中や引継ぎ時に意見や提案、要望を聞き、毎月のスタッフ会議やフロアミーティング等で話し合い検討して、運営に反映させている。年1回、職員にアンケートによる満足度や意向等の調査を実施し向上心を持って働けるよう配慮したり、人事考課による自己評価に基づいて管理者と話し合う機会を設け、業務や職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう社内では年に一度従業員の満足度や管理職等の挑戦意向等のアンケート実施や絶対評価での人事効果、保有資格やスキルに応じての段位制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員においては、配属前の研修や定期的なフォロー研修を行う他、定期的な研修に加え、研修内容(理解度等)に応じて別途個別で研修を行う取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や地域包括支援センターの取り組みを通じて、同業者との勉強会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、本人の困っていることや不安なことに対し支援内容を考え提案し、安心して入居いただけるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と共に家族にもアセスメントを行い、本人の意向と家族の意向を汲み取り、安心して入居いただけるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLに応じて必要と判断できる場合には福祉用具の導入を行う等し、安心安全を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者と日々の洗濯や掃除等を行い、「ありがとうの」気持ちを伝え、協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には接遇を大切に、家族がまた事業所に足を運んで頂けるよう対応している。また、本人と家族の外出についても推奨している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会では事前予約もあり躊躇われる場合もあり、その際には地域住民も気軽に参加いただけるイベント時に会話を楽しんでもらえるように対応している。	コロナ禍の制限を緩和し家族との外出や外食、外泊など今までの関係が途切れないような支援に努めている。また、音楽療法と同時にカフェを再開し家族や友人と再会できるよう配慮したり、週1回の移動販売での買い物、食事の下処理や盛り付けなどの家事仕事、音楽教室に家族と通うなどの趣味の継続、年賀状などを通して今まで大切にしてきた人や物事が続けられるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を見ながら、必要に応じては咳の配置を変え、孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談があった際には対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を伺い、意向に合わせた支援を行なっている。意思疎通が困難な場合、性格や生活歴等も加味しながら、フロアミーティングで本人の立場に立って支援内容を検討している。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などから本人の思いや希望を聴くようにしている。得た情報や家族からの情報を基にカンファレンス等で話し合い、支援内容の検討を行い、介護計画に盛り込んでいる。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントにて状況を把握する他、入居後も日々のコミュニケーションからも新たな情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中フロアで過ごされることが多い中で日々状態を観察し、状態変化に応じて居室で休む時間を設ける等の対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングにて職員から日々の関りからみえた課題点や他職種にはヒアリング等で意見をあつめ、本人・家族の意向に沿いながら、現状に合った介護計画の立案に努めている。	日々の暮らしの中で入居者の思いや身体状況の変化を記録し職員の日々の関りから課題を抽出し、家族の意見や意向も踏まえて月1回のフロア会議で話し合っている。計画作成担当者を中心に実践の結果や対応策等を確認して3か月ごとにモニタリングを行っている。必要に応じて医師や看護師の意見も反映させながら6か月ごとに現状に即した介護計画の作成をしている。状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアの実践や結果、そして管理日誌や申し送りノートにはその気づきや対応策等を共有し、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力の低下を機に独歩が困難となった際には、福祉用具や訪問マッサージの利用を提案し、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護、医療等のフォーマルサービスや、家族や馴染みの人等のインフォーマルのサポートを受けながら、より安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医での対応を行っているが、本人・家族の意向があればかかりつけ医にて対応も可能としている。	入居時に今までのかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。内科の往診が月2回と歯科の往診が受けられることから提携医を主治医としている方が多い。希望する内科医の往診も受け入れている。訪問看護師により週1回入居者の健康管理に努め、必要に応じて往診や受診の対応をしている。健康状態に変化があった場合は、24時間体制により提携医や看護師、協力医療機関による、速やかで適切な医療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の際に体調に変化があった利用者の報告を行い、必要に応じて臨時的な往診や受診等の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期の入院にて認知症の悪化が心配されるため、医療機関と現在の状況や早期に退院できる様電話にて調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行っている。また、状態が悪化しつつある際には家族や主治医を主に多職種にて今後の支援内容について改めて話し合いを行っている。	看取りの実績があり受け入れもしている。入居時に事業所として、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の意向を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に意向を再確認し、早い段階から医師や看護師その他関係者と話し合い計画の見直しやチームで看取る体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるよう努めている。職員は、法人が行う終末期を含めた医療や介護、メンタルケアなどの勉強会や研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修にて救急時の対応について学ぶ機会をもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な事業所内での防災訓練の他、地域の防災訓練にも参加し、地域の対応方法についても確認し、協力体制を築いている。	年2回、火災や地震だけでなく様々な災害や水害による垂直避難訓練も取り入れ、昼間帯や夜間帯の職員体制による避難誘導や初期消火訓練も実施している。職員にはAEDの使用法を周知し、緊急時に備えている。備蓄品は水や食料を3日分、毛布や簡易トイレ、カセットコンロ、ラジオなどを準備している。非常持ち出し袋も備えている。地域の防災訓練に参加したり施設が災害時一時避難所として、どのように協力できるかを模索している。BCP計画も作成している。	地域の防災訓練に参加したり地域との交流も深まり協力体制も構築されていく中で、事業所が一時避難所としての在り方などを本部や関係機関と検討を重ね、地域との協力体制の強化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自身や誇りを損ねないために、否定しない声掛けを心掛け、人格を尊重する観点からも説明を行い、本人の同意の元で支援を行っている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛け、「人生の先輩」としての気持ちを持って接するようにしている。日常のケアにおいても気づきを大切に職員会議などで話し合い支援に努めている。接し方や言葉かけなどの接遇研修や虐待防止等の研修に参加して質の良い支援の実施に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時に衣服の着替えを選択いただく他、オープン・クローズドクエッションを用いながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護拒否があった利用者にも無理強いせず、時間をおいての対応や、食事についても個々のペースに合わせてながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が持参されている化粧品を使用している他2月に1回訪問美容にておしゃれを楽しまれている。また毎朝整容を行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かせるよう必要最低限の介助に止める等自分自身で食べる楽しさを大切にしている。また盛り付けなど調理に参加いただく他、季節に応じて戸外に出掛け外食を楽しんでいる。	食材と献立は業者に委託しているが、入居者の希望や要望を業者に伝え献立に反映する機会としている。各ユニットで入居者の好みに合うよう工夫して調理をしたり、菜園で育てられた野菜を調理し食卓に彩りを添えている。入居者は保有能力に合わせて盛り付けや後片付けなど職員と共に行っている。お寿司のテイクアウトや季節の食事を楽しめるよう外食も再開し鰻を食べに出掛けるなど食べる楽しみを大切に支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に応じて、刻みやミキサー、トロミ剤を使用し、食事形態を変更して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて声掛けや介助を行い、歯科医師の助言のもとスポンジブラシや舌ブラシ等も併用しながら口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難となっても、2人介助にてトイレでの排泄が出来る様対応している。また個々の排泄パターンに応じてトイレの声替えを行っている。	個々の排泄パターンや排せつ前の行動の変化を把握しその人に合った声かけやタイミングに合わせて誘導するようにしている。できるだけ「トイレでの排泄」に向けた自立支援に努め、夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りと誘導を行っている。便秘予防では、食事内容の工夫や体を動かす機会も設け自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	地域の牛乳屋から毎朝牛乳を届けていただき、乳製品の摂取を行っている。また蠕動運動促進のため午前と午後体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決まっているが、拒否があった際は時間や日にちを変更している。また、湯や足ふきは毎回替え清潔を保ち、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら週2~3回を基本としているが、希望があればできる限り対応している。湯は毎回替え、清潔を保っている。冬季はヒートショックに配慮し脱衣室や浴室の温度差がないよう気を配っている。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も取り入れている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	孤立や廃用が進まないよう極力フロアで過ごしていただくが、生活習慣や体調に合わせて居室で休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際には報告書を通じて職員に周知を行い、症状に変化がないかの観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯、掃除に参加いただき役割が生きがい、やりがいに繋がるよう対応する他、レクリエーションや音楽療法等のイベントを定期的を実施し、楽しみをもって生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類に移行して以降家族の協力を得ながら、馴染みの場所に外出できるよう支援している。	外出の制限が緩和され、天気の良い日には近隣の公園の散歩に出掛け四季の移り変わりを感じている。また、菜園やプランターで野菜や花を育て、水やりや収穫、草取りなど外気に触れる支援や家族の協力を得ながら外出できる機会設けられるよう努めている。毎週定期的に来訪する移動販売を利用してパンやお菓子などを買ったり、地域の知り合いと会うなど戸外に出る良い機会としている。外出制限の緩和に伴い以前のように季節に応じた行事などが再開できるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて金銭管理を行っているが、移動スーパーでは本人が欲しい商品がある際には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の親族にはリモートにて会話ができるように対応している。また、年賀状の代わりとして1年の利用者の歩みをアルバムにして送付し、家族の絆が途切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者と制作した貼り絵等を掲示し、季節感を取り入れている。また温度・湿度計、空気清浄機を備え感染症対策に努めながら、過ごしやすい空調や臭いのない空間を提供している。	2階と3階の居間は広く、開放感を感じる空間となっている。大きな窓からは自然光が差し、見晴らしも良く、季節の移り変わりが感じられる。食堂と居間がワンフロアの共有スペースで入居者は自分の席やソファに腰かけてテレビを観たり、談笑したりしてのんびり過ごしている。職員と共に作成した季節に応じた貼り絵の作品は壁面に飾られている。感染対策として空気清浄機を備え空調や照明、臭気などにも配慮した居心地のよい共用空間としている。入居者は職員と一緒に掃除をして清潔感のある環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、フロアにソファを備え一人の時間や気の合う利用者で過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故に配慮した上にはなるが、本人が今まで慣れ親しんだ家具や大切にしている物を居室に飾り、環境の変化を少なくし、心地よく過ごせるよう対応している。	居室には、エアコンやベット、大きめのクローゼットが備え付けられ整理整頓しやすく安全に過ごせるよう配慮されている。自宅で使い慣れた家具や机、椅子などを持ち込み、家族の写真や愛着のある小物や手作り作品などを飾って居心地のよい環境となるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は手摺やADLに合わせた洗面台、可動式の風呂を設置している他、トイレの場所を間違えないようにポップを掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット②		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和6年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナから地域の行事が中止や無くなってきている中で事業所が地域の催し物を発信していく立場となれる様、地域の方々を招いての音楽療法や夏祭りを実施している。また今後予想される買物難民の問題に対して移動スーパーを誘致している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白とブラウンを基調とした3階建ての事業所はマンションを思わせる外観で、開設9年を迎えている。1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。法人の理念を基本として、事業所独自の理念「自分らしくたのしく生きる」を今年度のビジョンとして掲げ、笑顔あふれる我が家を目指して入居者が心地よく安心して過ごせるように職員が一丸となってケアに繋げるように努めている。周りは閑静な住宅街で近くには公園、小学校や中学校、コンビニなどがあり日々の散歩で町の賑わいや季節を感じるようにしている。同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」への参加、事業所主催の夏祭りやさまざまなボランティア行事などに地域の方々も誘い入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ環境や催しが徐々に再開し、入居者の笑顔が取り戻せる機会となっている。また、将来的な買い物難民を想定した移動スーパーも継続し、入居者の楽しみとして継続している。穏やかな日差しが差し込む居間では、ソファに腰掛けのんびりとテレビを観たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に加え年ごとにビジョンを考え、生活上りハビリ、認知症緩和、地域交流について実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が公民会(自治会)に入会しており、地域の防災訓練へ参加する等交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェをコロナ5類移行後に再開し、地域の人々に認知症の人の理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を事業所が可能な範囲で改善に取り組み、より良い事業所をつくるために活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営上不明な点を電話にて確認する他、地域包括支援センターとも運営推進会議の場を主としながら事業所の取り組みを伝える等協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1度身体拘束適正化委員会の実施や、定期的な研修の実施を行い、身体拘束を行う場合でも、常態化せず、廃止に向けての取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で定期的に人権・虐待に関する研修を行っている。多数の目を入れるため職員のフロアを固定せず行き来する体制や注意し合える環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で権利擁護に関する制度の研修を行い、職員の理解を深めている。また、必要に応じて権利擁護の提案を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不明な点の確認をおこなっており、改定時には事前に運営推進会議の場での説明、質疑応答を設け理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との関りの中や来訪時や電話、運営推進会議の中で意見・要望を伺いより良い事業所運営ができるよう改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中やスタッフ会議、フロアミーティングを開催し職員の意見・要望を伺い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう社内では年に一度従業員の満足度や管理職等の挑戦意向等のアンケート実施や絶対評価での人事効果、保有資格やスキルに応じての段位制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員においては、配属前の研修や定期的なフォロー研修を行う他、定期的な研修に加え、研修内容(理解度等)に応じて別途個別で研修を行う取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や地域包括支援センターの取り組みを通じて、同業者との勉強会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、本人の困っていることや不安なことに対し支援内容を考え提案し、安心して入居いただけるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のADLに応じて福祉用具や訪問マッサージ等のサービス利用の提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLに応じて必要と判断できる場合には福祉用具の導入を行う等し、安心安全を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者と日々の洗濯や掃除等を行い、「ありがとう」気持ちを伝え、協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には接遇を大切に、家族がまた事業所に足を運んで頂けるよう対応している。また、本人と家族の外出についても推奨している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力いただき、面会や外出にて馴染みの人や場所を訪れる等関係性の維持を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を見ながら、必要に応じては咳の配置を変え、孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談があった際には対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を伺い、意向に合わせた支援を行なっている。意思疎通が困難な場合、性格や生活歴等も加味しながら、フロアミーティングで本人の立場に立って支援内容を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントにて状況を把握する他、入居後も日々のコミュニケーションからも新たな情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中フロアで過ごされることが多い中で日々状態を観察し、状態変化に応じて居室で休む時間を設ける等の対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングにて職員から日々の関りからみえた課題点や他職種にはヒアリング等で意見をあつめ、本人・家族の意向に沿いながら、現状に合った介護計画の立案に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアの実践や結果、そして管理日誌や申し送りノートにはその気づきや対応策等を共有し、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力の低下や骨折を機に独歩が困難となった際には、福祉用具や訪問マッサージの利用を提案し、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護、医療等のフォーマルサービスや、家族や馴染みの人等のインフォーマルのサポートを受けながら、より安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医での対応を行っているが、家族の協力のもと以前からのかかりつけ医を継続し適切な医療を受けられるように対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の際に体調に変化があった利用者の報告を行い、必要に応じて臨時の往診や受診等の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期の入院にて認知症の悪化が心配されるため、医療機関と現在の状況や早期に退院できる様電話にて調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行っている。また、状態が悪化しつつある際には家族や主治医を主に多職種にて今後の支援内容について改めて話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修にて救急時の対応について学ぶ機会をもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な事業所内での防災訓練の他、地域の防災訓練にも参加し、地域の対応方法についても確認し、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自身や誇りを損ねないために、否定しない声掛けを心掛け、人格を尊重する観点からも説明を行い、本人の同意の元で支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時に衣服の着替えを選択いただく他、オープン・クローズドクエッションを用いながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護拒否があった利用者に無理強いせず、時間をおいての対応や、食事についても個々のペースに合わせてながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にお好きな衣服を選んでいただくことや2月に1回訪問美容にておしゃれを楽しまれている。また毎朝整容を行い身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かせるよう自助具の使用や必要最低限の介助に止める等自分自身で食べる楽しさを大切にしている。また盛り付けなど調理に参加いただく他、季節に応じて戸外に出掛け外食を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下機能に応じて、刻みやミキサー、トロミ剤を使用し、食事形態を変更して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて声掛けや介助を行い、歯科医師の助言のもとスポンジブラシや舌ブラシ等も併用しながら口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声替えにてトイレ誘導を行い、継続してトイレでの排泄が出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	地域の牛乳屋から毎朝牛乳を届けていただき、乳製品の摂取を行っている。また蠕動運動促進のため午前と午後にて体操を行い、ゴミ出しに協力いただく等少しでも歩く機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決まっているが、拒否があった際は時間や日にちを変更している。また、湯や足ふきは毎回替え清潔を保ち、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	孤立や廃用が進まないよう極力フロアで過ごしていただくが、生活習慣や体調に合わせて居室で休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際には報告書を通じて職員に周知を行い、症状に変化がないかの観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯、掃除に参加いただき役割が生きがい、やりがいに繋がるよ対応する他、レクリエーションや音楽療法等のイベントを定期的実施し、楽しみをもって生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類に移行して以降家族の協力を得ながら、馴染みの場所に外出できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて金銭管理を行っているが、必要に応じて使えるように支援している。また手元にお金がないと不安な利用者については金額を確認の上、所持して安心していただけるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の親族にはリモートにて会話ができるように対応している。また、年賀状の代わりとして1年の利用者の歩みをアルバムにして送付し、家族の絆が途切れないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて利用者と制作した貼り絵等を掲示し、季節感を取り入れている。また温度・湿度計、空気清浄機を備え感染症対策に努めながら、過ごしやすい空調や臭いのない空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、フロアにソファを備え一人の時間や気の合う利用者と過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故に配慮した上にはなるが、本人が今まで慣れ親しんだ家具や大切にしている物を居室に飾り、環境の変化を少なくし、心地よく過ごせるよう対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は手摺やADLに合わせた洗面台、可動式の風呂を設置している他、ボタンの押し間違いがないようにネームをつけて案内している。		